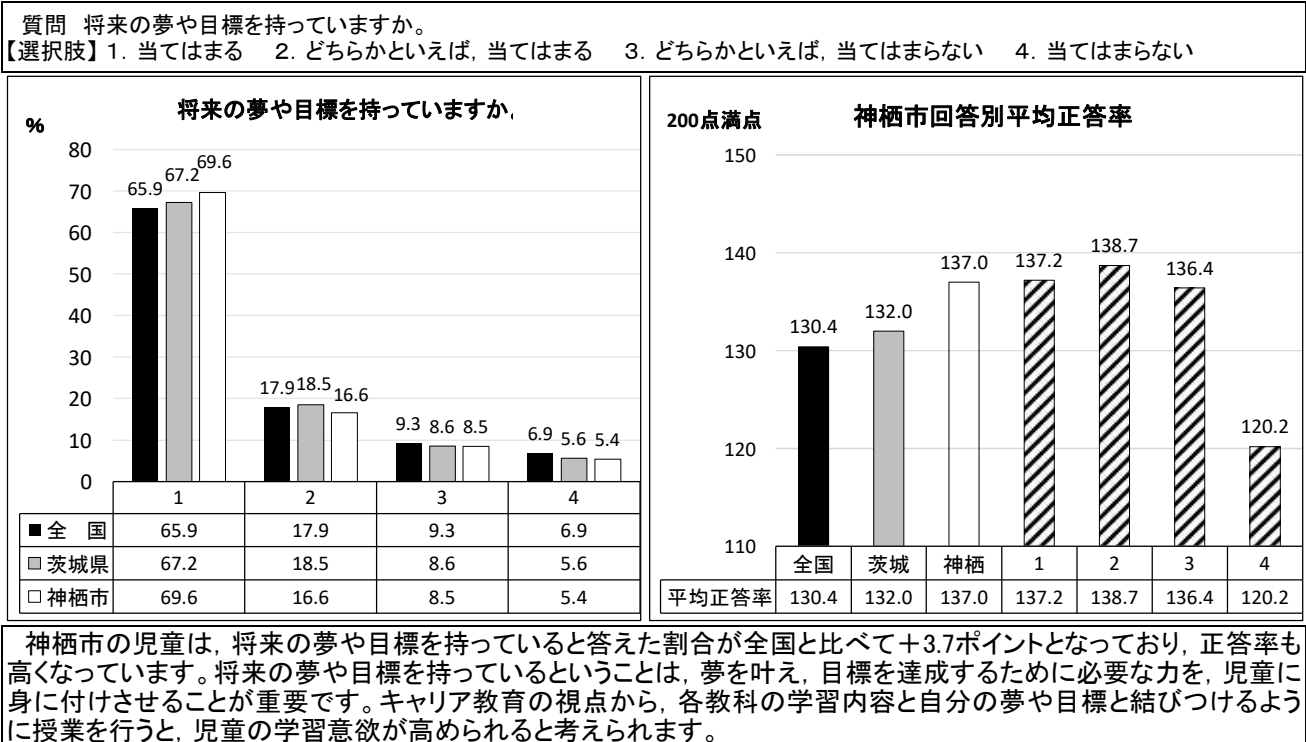


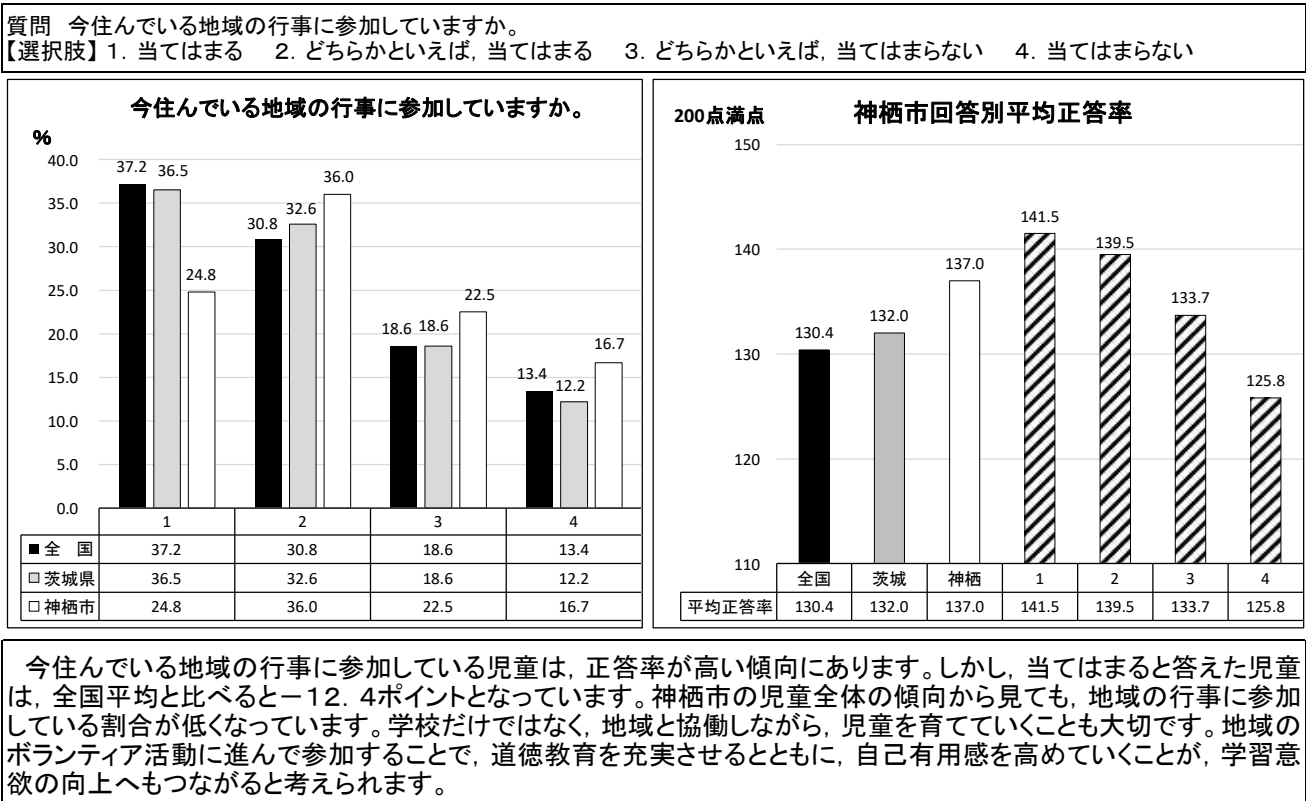
全国学力・学習状況調査の結果から見える学習・生活習慣と学力の関係

質問紙調査分析1(小学校:生活面)

【8】 将来の夢や目標を持っている児童は、正答率が高い傾向が見られます。

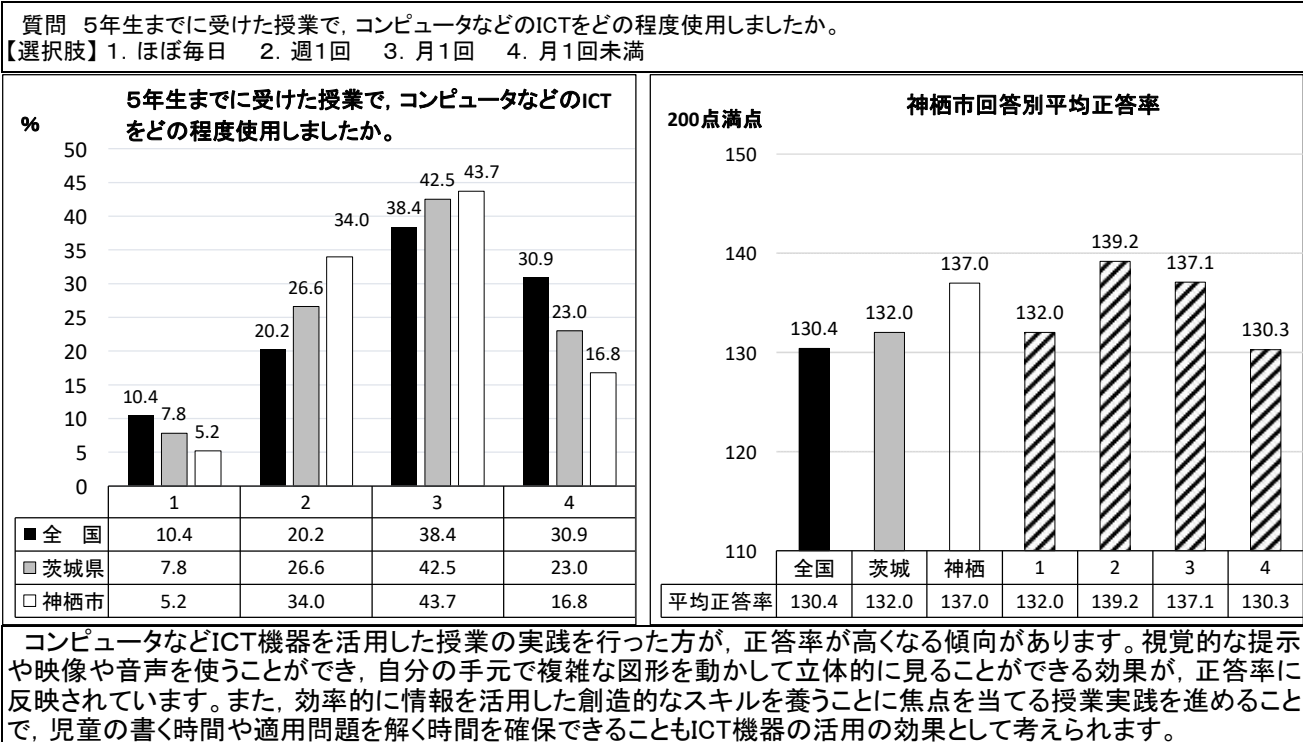


【23】 今住んでいる地域の行事に参加している児童は、正答率が高い傾向が見られます。

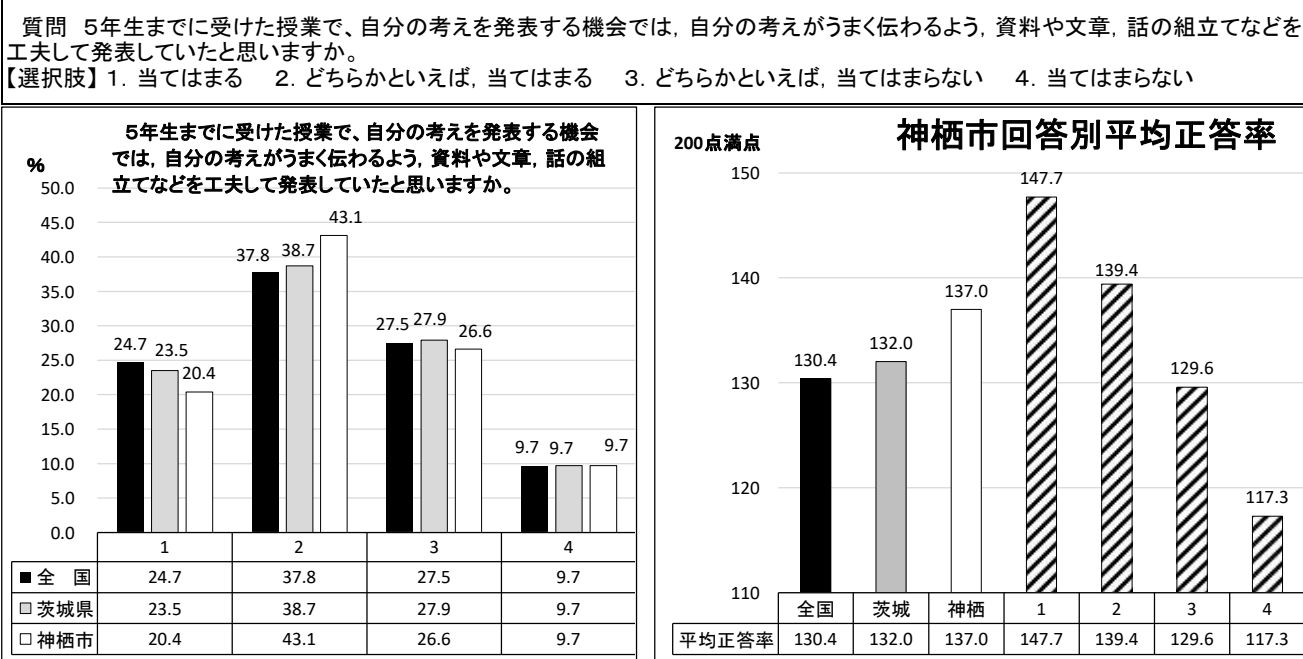


質問紙調査分析2(小学校・学習面)

【27】 コンピュータなどICT機器を活用した授業の実践を受けた児童の方が、正答率が高くなる傾向があります。



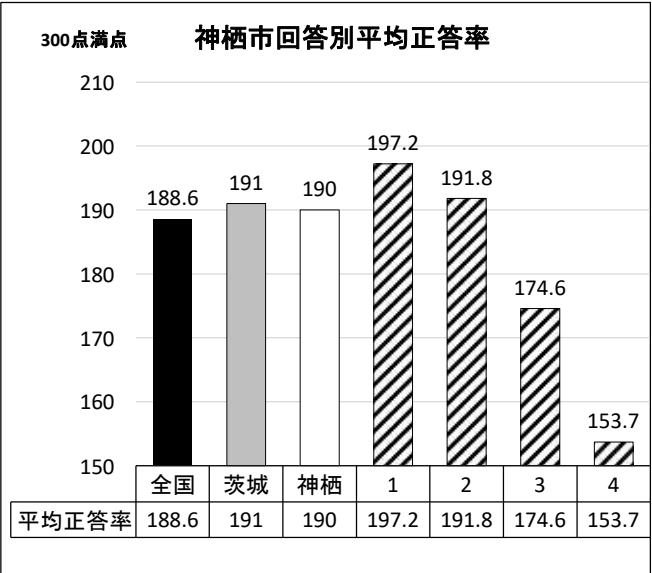
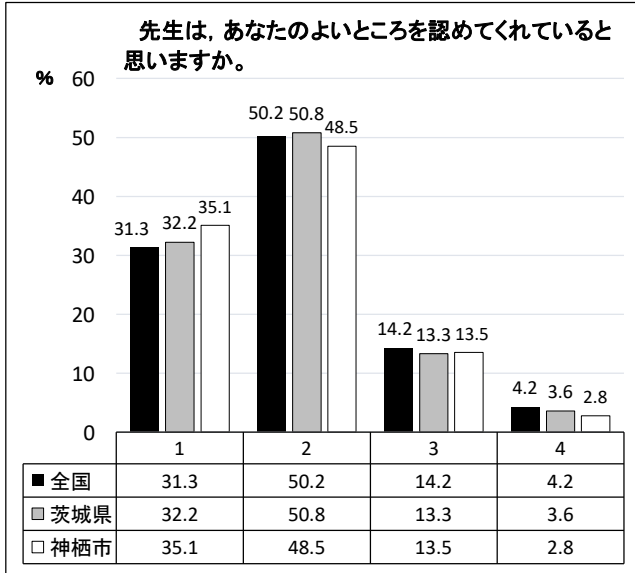
【36】 児童が自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるように、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したと思っている児童は正答率が高くなる傾向があります。



質問紙調査分析1(中学校)

【6】 「先生に認められている」と感じている生徒は、自己有用感が高い傾向があります。教師の言葉が生徒の自己有用感につながり、それが学びへの主体性や学力そのものにつながっていくものと考えられます。

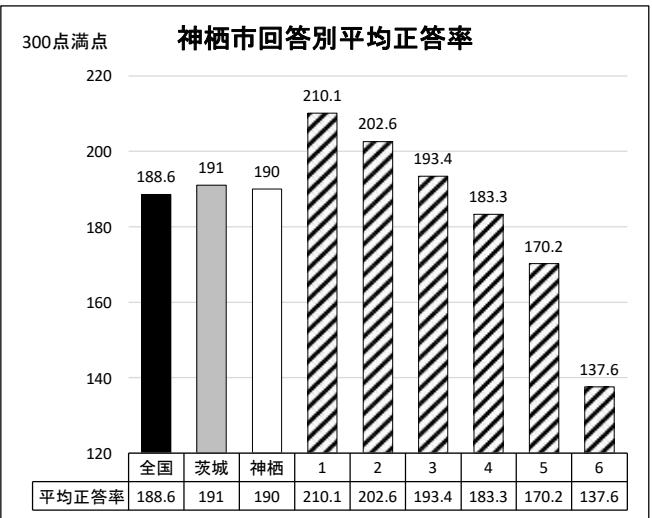
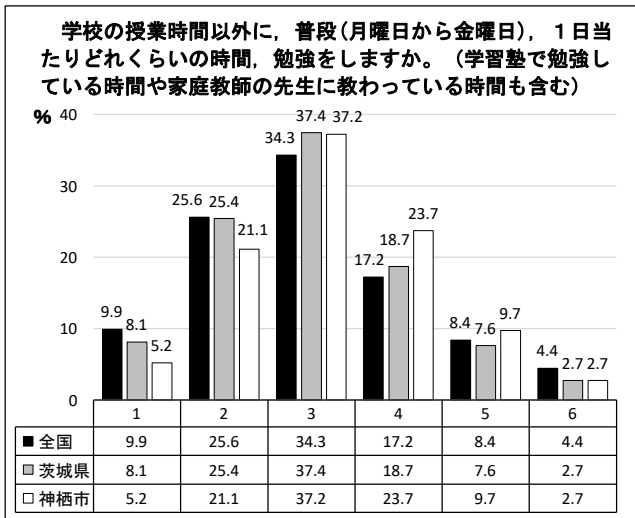
質問 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
 【選択肢】 1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない



授業等において、友達と語り合う場面をできるだけ多くつくり、友達の話聞き、自分の考えや意見を発表するという経験をさせましょう。また、発表をしたときは、「しっかりほめる」など認め励まししながら、生徒の自己有用感を高める学級集団づくりに取り組みましょう。認められていると感じている生徒は、様々な物事に取り組む意欲が高いことがあげられます。

【18】 平日の家庭での学習時間が、2時間～3時間の生徒の正答率が高い傾向にあります。

質問 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
 (学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)
 【選択肢】 1. 3時間以上 2. 2時間以上、3時間より少ない 3. 1時間以上、2時間より少ない
 4. 30分以上、1時間より少ない 5. 30分より少ない 6. 全くしない

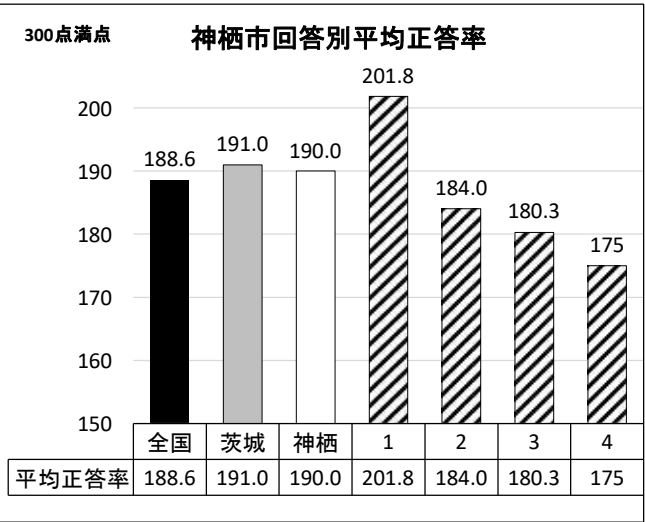
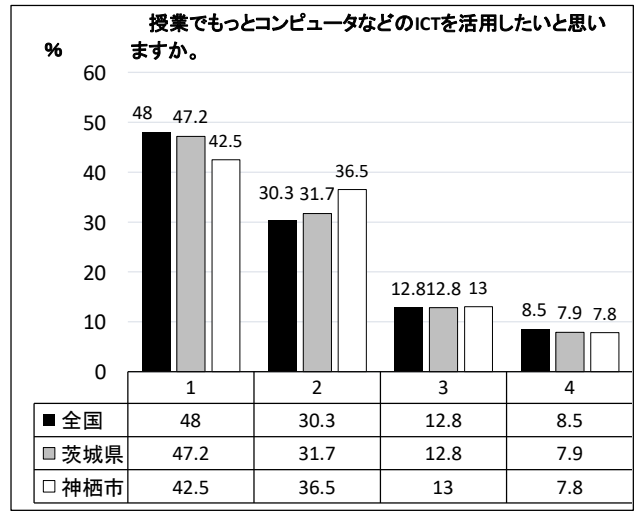


学習時間は全国に比べてやや少なく、家庭における学習習慣の定着が不十分な傾向にあります。宿題をする割合は高いのですが、計画的な勉強や予習・復習をする割合は低く、学習態度が受動的であることがうかがえます。宿題とともに予習・復習のバランスのとれた、自主的・計画的な学習態度を育成する必要があります。

質問紙調査分析2(中学校)

【31】 授業中にコンピュータなどのICT機器を活用したいと考えている生徒ほど平均正答率が高い傾向にあります。

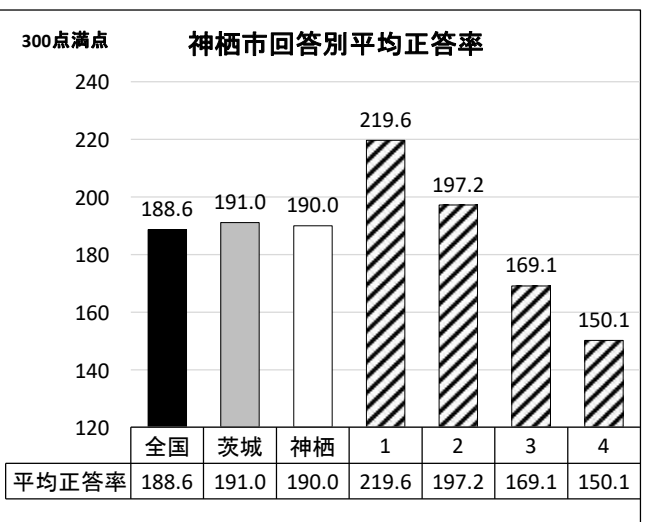
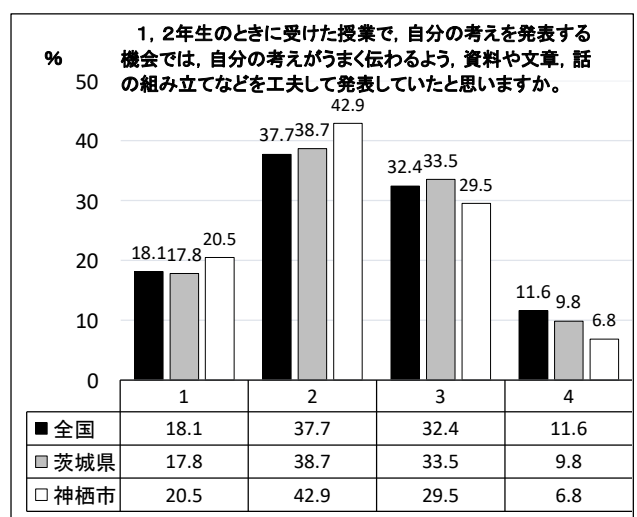
質問 授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか。
 【選択肢】 1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない



神栖市では、ICTを活用したいと考えていて、正答できた生徒は全国平均を5.5ポイント下回っています。それは、ICT機器の良さを授業中に感じる機会がなかったのではないかと考えられます。各校のICT機器の環境を充実して、活用のための研修を行い、授業を作っていくことが必要になってきます。

【38】 授業中に自分の考えを発表するときに工夫して発表している生徒ほど平均正答率が高い傾向にあります。

質問 1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。
 【選択肢】 1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わない 4. そう思わない



神栖市では、自分の考えを工夫しながら発表している生徒の正答率が県平均を3.3ポイント上回っています。これは神栖市をあげて学力向上プロジェクトに取り組んだことが大きな要因となっていると考えられます。これからも、授業において自分の考えを発表する際に、相手に伝わりやすい工夫された発表をできるように指導していきましょう。